

## 第9回これからの北海道立近代美術館検討会議 議事録

日 時 令和5年(2023年)2月2日(木) 10時00分~10時40分

場 所 Web会議システム ZOOM

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

議 題 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(中間報告)素案

議 事

(1)事務局から資料1、2に基づき説明

(2)質疑応答等 ・無

(菊地委員)

前回会議における意見がほぼ反映されており、特段の修正意見はない。

(佐々木幸委員)

ほぼ全ての意見が反映されており、修正の必要はないと考える。

(佐藤委員)

1点質問だが、20ページ「スタッフの配置、育成」の中で、資金管理という文言が追加されているが、資金管理とは具体的にどのようなことを指すのか。

(佐々木亨委員)

この修正点については、前回会議を欠席したため、別途、私から意見を述べさせていただいたものだが、学芸業務だけではなく、事務部門の広報やマーケティング、資金調達についても専門性が必要なため、追記してはどうかとお伝えした。資金管理だと、お金の運用も含まれてくるため、資金調達もしくはファンドレイジングと書いた方がわかりやすいのではないかと。

(佐藤委員)

私も、まさにファンドレイズのことを指しているものと想像していた。今後、美術館事業を展開していく上で、様々な協力を得ながら進めていくことが必要であり、資金管理ではなく、資金調達とはっきり書いた方がよい。

(佐々木亨委員)

広報や資金調達については、美術館の活動を対外的に説明し、納得してもらって来てもらう、もしくはお金を払ってもらうための大事な行為。明確に資金調達と表現した方がよいと思う。

(事務局)

ファンドレイジングをイメージしていたため、資金調達に修正する。

(北村委員)

これまでの議論がよくまとまっている。文言を変える必要はないが、私たちはこれまでの議論を通して、近代美術館の現状を共通認識として持っているものの、来館者のアンケートなどを見ると、近代美術館をリニューアルする必要性を十分周知できていないのではないかと。外観は立派だし、展示会もきちんと行われている。しかし、実際は展示室は傷んでいるし、収蔵庫の狭あい化や、収蔵庫ではない場所に作品を保管せざるを得ない状況となっていることを、道民の皆さんはあまり知らないのではないかと。現状のこの問題を積極的に発信し、道民の皆様にも知ってもらいたい。そして、リニューアルに向けた機運を高めてもらいたい。

(佐々木亨委員)

今回は中間報告で、リニューアルするまで何年もあると思うが、色々な場面で道民に説明していくことが大事。この中間報告は、短時間であったにもかかわらず、よくまとめられている。来館者の声を丹念に聞いて、色々なことがよくわかったと思う。

この作業は今後も色々な場面で続けていくことになると思う。今回のように短時間でまとめる場合は、担当者が一生懸命やって、他の人はただそれを聞くということもあり得るが、博物館の事務部門・学芸部門の皆が共通して興味を持って、「この活動が大事」と共通認識を図り、広げていくことが重要。そして、こういう作業は、美術館活動のベースになる大事な作業のため、リニューアル後も続けていくことが大切。もちろん、美術館のメインとなる活動ではなく、下支えとなる活動だが、不可欠な活動であるため、細く長く、色々な人が意識している活動として位置づけていけば、今後更に発展できるのではないか。リニューアルに向けて行った今回の調査は、今後も広く続けていって欲しい。

(菊地委員)

これから、時間を割いて最終的な報告に向けて作業を行うことになると思うが、個人としてはとてもよい中間報告にまとまったと思う。広く色々な方から意見を聞いて、先生方からの貴重な意見もあってまとめられたもの。実りあるものとしていきたい。そのためには、書かれている言葉1つ1つをきちんと捉えて、書かれた言葉だけで終わらずに、実現できるよう取り組む必要がある。

もう少し取り組んでもよいかと思うことについて、道内外のアーティストの方やギャラリーの方などから、近美に期待することや求めていることを聞いてみると、意見が集まるのではないかな。

また、機運を高めることも重要。北海道における一大事業のため、この動きに多くの道民の皆さんに関わってもらい、議論を活性化させて、みんなでわくわくするような、機運を高める取組ができればよい。

(佐々木宰委員)

とても良い中間報告ができたと思う。これまでの議論の進め方も丁寧で評価できる。これからも継続的に、丁寧に進めていただきたい。また、広く道民の声を反映できるような仕組みについて、これからも検討して欲しい。北海道には近代美術館以外にも道立美術館がある。他の道立美術館と連携して、各地域の美術館利用者などの声を集めていただきたい。各都市に美術館があることを意識して取り組むと、より理解が得られるのではないかな。北海道全域の課題として捉えていただきたい。

また、教育のことについて、深く考えてくれたことについては、一言御礼を申し上げたい。子ども達、若年層、青年層の方の興味関心を得られるような、あるいはそういった層の方へのサービスを高められるような構想にしていきたい。「ウィズ・キッズ」のコンセプトに至るまで、かなりの時間を要し、苦勞もあったと思うが、美術館が大事な教育の資源であるということについて、道民の皆様にも認識してもらえよう、今後も検討を進めていただきたい。

(佐藤委員)

作品の収蔵に関しては、道立美術館全体のものとして収蔵計画があるが、10年に1度評価をして、課題を解決できるような見直しを行っている。美術館運営についても同様に、10年に1度でもよいので、見直すことができればよい。全体として、大変よい中間報告になったのではないかな。これをもとに、きちっとした整備計画が立てられるとよい。

(北村委員)

細かい点まで議論できたため、うれしく思う。4点申し上げたいが、1つ目は知事公館などがあるエリアを含めて、この場所をどうするのかと考えたとき、環境や緑の問題が重要であることは、皆の共通認識が図られたと思う。2つ目は、近美がこれまで良質な展覧会を数多く開催してきたため、今後なるべく途切れることなく、継続して展覧会を開催することも大事な使命だということ。3つ目は、収蔵作品は道民の貴重な財産であるため、确实・安全に保管することが大事だということ。4つ目は、第1回目の会議で座長が言っていた、わくわくする美術館を実現して欲しい。この4点を皆で了解し、目指すことができればよいと思う。

また、リニューアルは6年、7年先になるかもしれないが、それまでの間に事前に取り組めることがあれば、今からでも取り組んで欲しい。例えば、資料のアーカイブなど、将来に向けて、できるところから着手できれ

ばよい。

現在の近代美術館ができた時は、期成会のような形で道民の運動があったと聞いた。今回も道民の皆さんに知ってもらい、下から声が挙がるような仕組みができるとよい。

(菊地委員)

今後、フィージビリティスタディ（事業の実現可能性調査）を行うことと思うが、中間報告に書いてある言葉をどのように実現するかに向けて、肝になることだと思う。その鍵となるのが19ページにある比較項目の例の表であり、プラン毎の比較をしっかりと行い、これだと思うものに絞り込んでいくことは大変重要な作業。表には、美術館活動、経済性、環境性、その他と項目があるが、これまで1年間の議論を実現するために、この項目をどのようなものにするかが重要であり、非常に重たいもの。この項目をどうするかについて、専門性ある方に考えてもらうことが必要だし、公平的に評価してもらうことが大事。

私は、上場企業における統合報告書などの監修に入ることがあるが、どの企業もESG（環境、社会、ガバナンス）の観点で、かなりの予算を投じて専門家に評価を行ってもらい、企業活動の組み立て直しを行っている。企業にとってはこうした取組が、自社に対する投資対象になるか否かの分かれ道になっているため重視している。美術館はESGの考え方と若干異なると思うが、色々な方が近代美術館に期待して、訪問する、投資するという意味で、同じように考えることができるため、この比較評価は非常に重要。それなりに予算は必要かもしれないが、このプロジェクトは半世紀に及ぶ事業のため、目の前のことだけではなく、長期的な視点で予算を捉えることが必要だし、是非、専門家の方による検討・評価をしていただきたい。

第9回これからの北海道立近代美術館検討会議 出席者名簿

○ 構成員

(敬称略、五十音順)

所 属	職	氏 名	備 考
株式会社 haku	代表取締役	菊地 辰徳	
北海道大学	名誉教授	北村 清彦	
北海道教育大学釧路校	教 授	佐々木 宰	
北海道大学大学院文学研究院	教 授	佐々木 亨	
前札幌芸術の森美術館	館 長	佐藤 友哉	

○ 事務局

所 属	職	氏 名	備 考
北海道教育庁	生涯学習推進局長 (兼) 道立近代美術館担当課長	山上 和弘	座長
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	課 長	高見 里佳	
	課長補佐	遠藤 新理	
	係 長	福土兼太郎	
	主 事	伊藤 拓朗	
	主 事	宮下 直之	
北海道立近代美術館	副 館 長	松田 俊也	
	学芸副館長	中村 聖司	
	総務企画部長	豊村 洋	
	学芸部長	五十嵐聡美	
	学芸統括官	土岐美由紀	
	総務企画課長	今村ちぐさ	